

和歌山病院での実習を終えて



辻井 優一郎

今回、呼吸器内科の臨床実習の一環として、独立行政法人国立病院機構和歌山病院において、4月10日、11日の2日間実習をさせていただきました。和歌山病院は県下では唯一の結核病棟を備えた病院であり、初めての訪問ということで非常に楽しみにしていました。

まず、駿田副院長の結核における講義とN95マスクの装着法を学び、結核病棟の訪問をさせていただきました。今まで書籍でのみしか触れることのできなかつた結核の実際の臨床現場に足を踏み入れることができ、貴重な経験をすることができました。この実習で結核病棟を実際に訪問する以前は、結核病棟はより閉鎖的な空間で、なかなか入ることのできない病棟であるというイメージを持っていましたが、実際の結核病棟は、徹底した管理体制はあるものの、患者さんは自由に病棟内を歩き来し、ある程度の自由度があり、イメージとは少し違うものでした。実際の結核病棟を見学できたことは、これからの医療人としてのキャリアの中で必ず生きてくるものと思います。

そして、今回の実習で最も印象深く、感銘を受けたのが、南方院長によるX線写真の正常画像の理解に関する講義でした。今まで、ある疾患に対するX線写真の異常な所見は見ることがあっても、そもそもX線写真の正常像がどういうものなのかということ学んだことがなく、それがゆえに、実際に臨床実習が始まってから患者さんのX線写真を見ても所見が良くわからないという事態に陥っていたため、非常にためになる、有意義な講義がありました。また、気管支鏡体操などユーモア溢れる講義は、非常に分かりやすく、かつ今まで曖昧であった概念やわかった気でいた事柄に気付かされ、さらなる勉学に対するモチベーションの向上につながるものでもありました。このような素晴らしい学びの場を提供して下さった南方院長には心より感謝いたします。そして、夕食の際や講義の合間での、これからの医療人として、また一人の人間として大切になるたくさんのお話は、これからの私の人生においておおいに役立つと思います。

2日間という非常に短い期間ではありましたが、非常に多くのことを学ぶことができ、実習に関わって下さった、南方院長、駿田副院長、小野呼吸器科医長、臨床工学技師である休場先生、和歌山病院のスタッフの皆様には、改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました